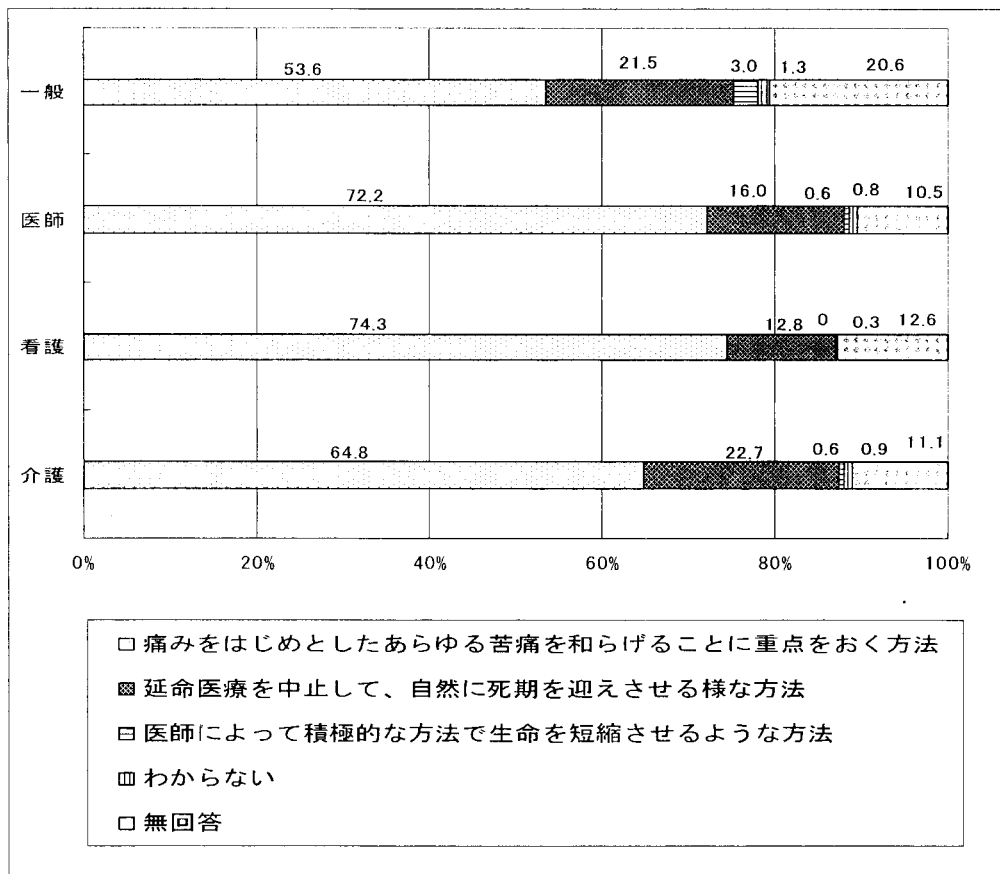


【(一般)問6補問2 (医療従事者)問5補問2】 (問6、5で「2どちらか」というと延命医療は望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に)この場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

多くは、単なる延命医療を中止するときに、「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法」(緩和医療)を選択し(般52%、医71%、看71%、介61%)ており、自分の場合と同様である。緩和ケア勤務者では特にその傾向は強かった。

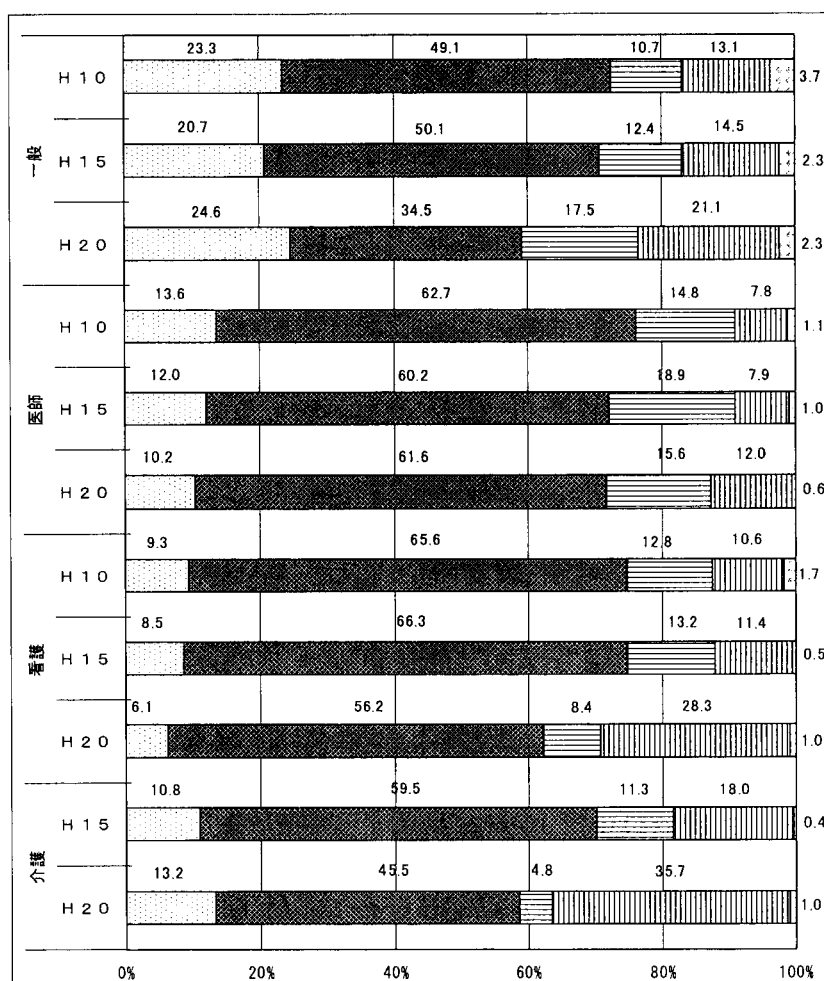
一方で、「あらゆる苦痛から解放され安楽になるために医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法」(積極的安楽死)を選択する者は少なく、前回より減少している。設問の設定のためかわからないと解答するものが多くなり、全体の傾向がつかみにくくなった。一般国民、医師、看護師では自分の場合と比べさらに少ない(般3%、医0.6%、看0%、介0.6%)。



【(一般)問6】あなたの家族が治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、延命医療を望みますか。(○は1つ)

【(医療従事者)問9】あなたが担当している患者(入所者)が治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)場合、延命医療の中止についてどのようにお考えになりますか。(○は1つ)

自分の患者(または自分の家族)が末期状態の患者になった場合については、延命治療を中止することに肯定的である国民、医師、看護職員は52%, 77%, 65%, 50%(前回63%, 79%, 80%, 71%)であり前回と比べ減少している。診療所勤務の看護師は「わからない」とする者が多かった。回答の選択肢の表現が変わったことも考えられ、単純比較は出来ない。いずれも自分の場合より低くなっている。



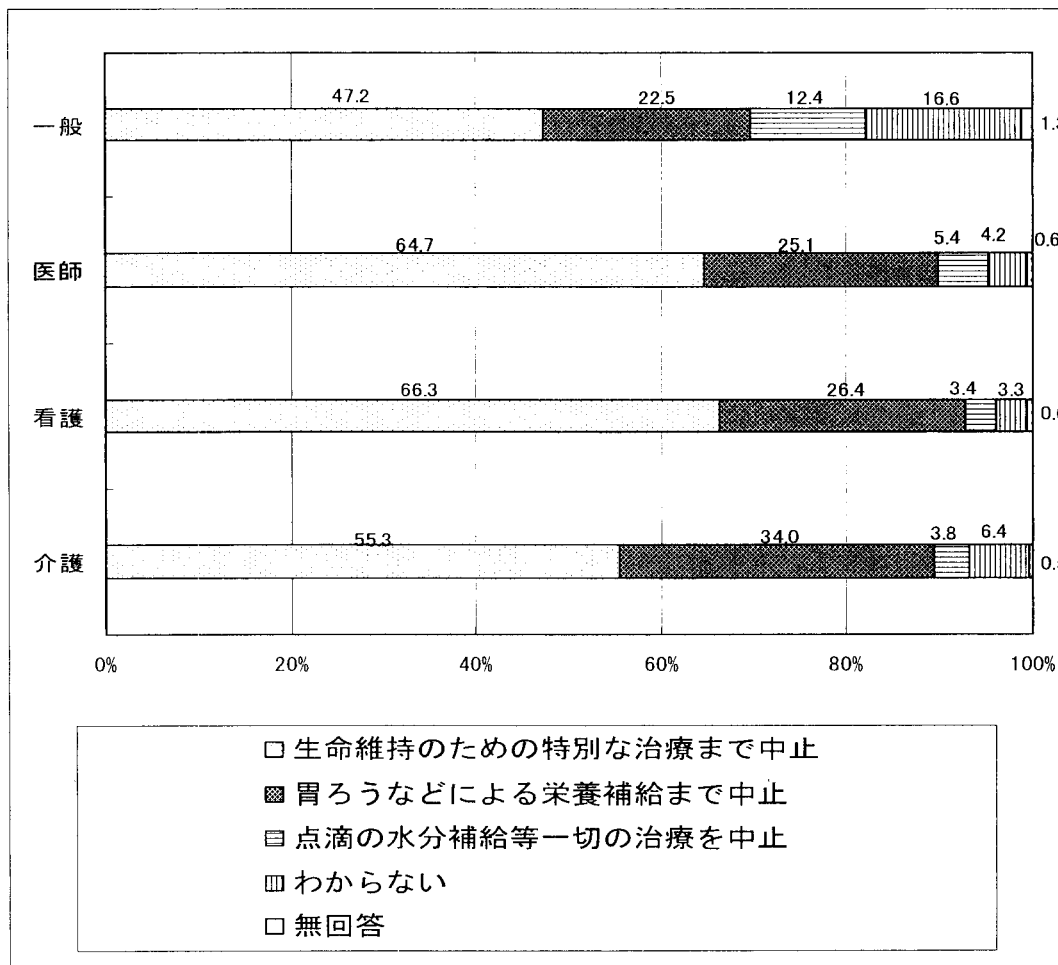
- (H15) 単なる延命医療であつても続けられるべきである
- (H20一般) 延命医療を望む
- (H20医療従事者) 延命医療であつても続けるべきである
- (H15) 単なる延命医療はやめたほうがよい
- (H20一般) どちらかというとな延命医療は望まない
- (H20医療従事者) どちらかというとな延命医療は中止したほうがよい
- (H15) 単なる延命医療はやめるべきである
- (H20一般) 延命医療は望まない
- (H20医療従事者) 延命医療は中止するべきである
- わからない
- 無回答

【(一般) 問6 補問1】

【(医療従事者) 問9 補問1】

(問6、9で「2どちらか」というと延命医療は望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような治療を中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

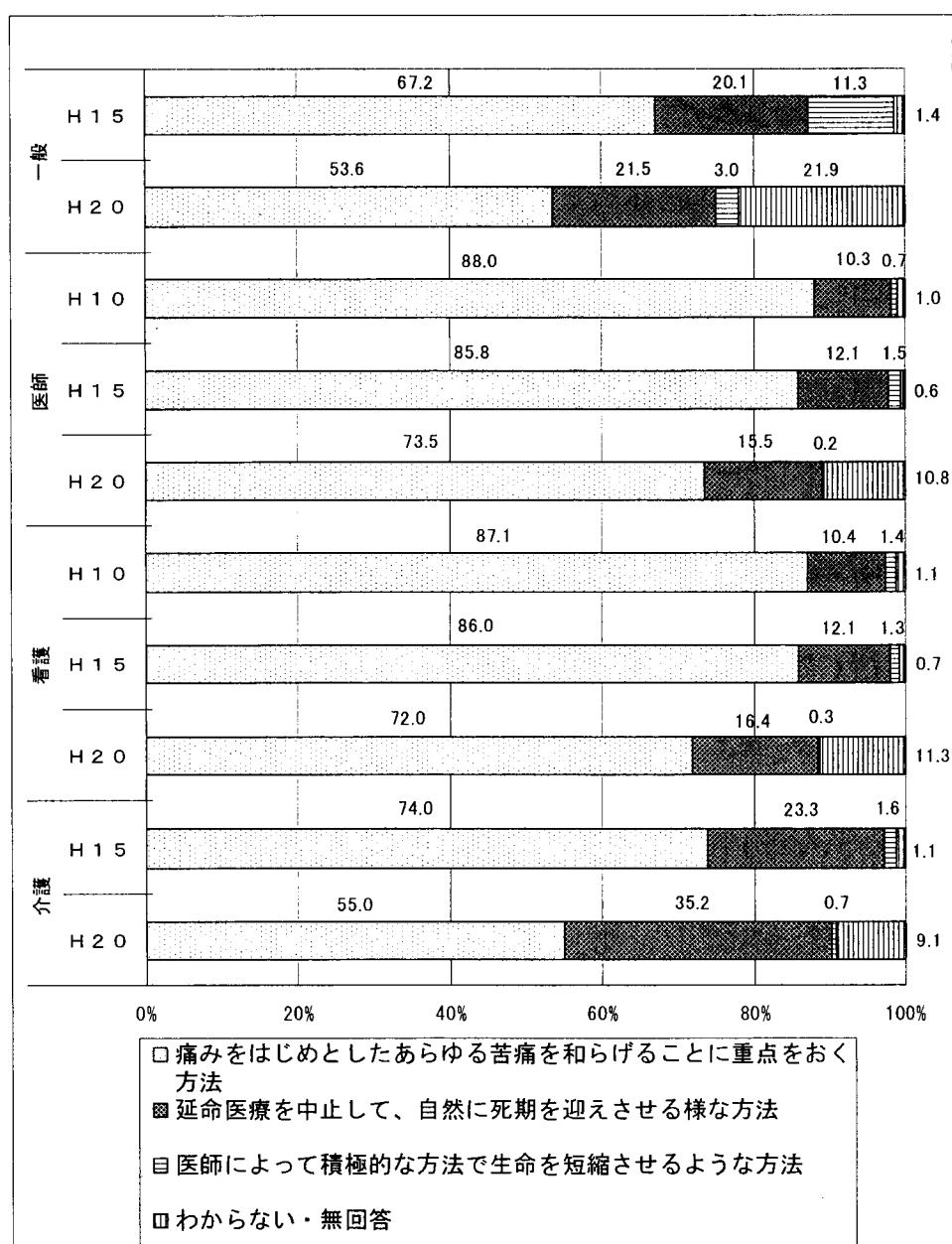
生命維持のための特別な治療までの中止を望んでいる者が最も多く(般 47% 医 65% 看 66% 介 55%)、自分の場合と比べて点滴の水分補給等一切の治療を中止してほしいと思う者は少ない。



【(一般) 問6補問2】(「2どちらかというとな延命医療は望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

【(医療従事者) 問9補問2】(「2どちらかというとな延命医療は中止したほうがよい」「3延命医療は中止するべきである」をお選びの方に) この場合、具体的にはどのような医療・ケア方法が考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

自分の場合とほぼ同じ傾向であり、「痛みを始めとしたあらゆる苦痛を和らげる」と「自然に死期を迎えさせるような方法」が多くを占める(般 75%, 医 89%, 看 88%, 介 90%)。一般国民では、積極的安楽死を回答した者は前回より減少し(3%, 前回 11%)、「わからない」としたものが増加した(22%, 前回 1%)。



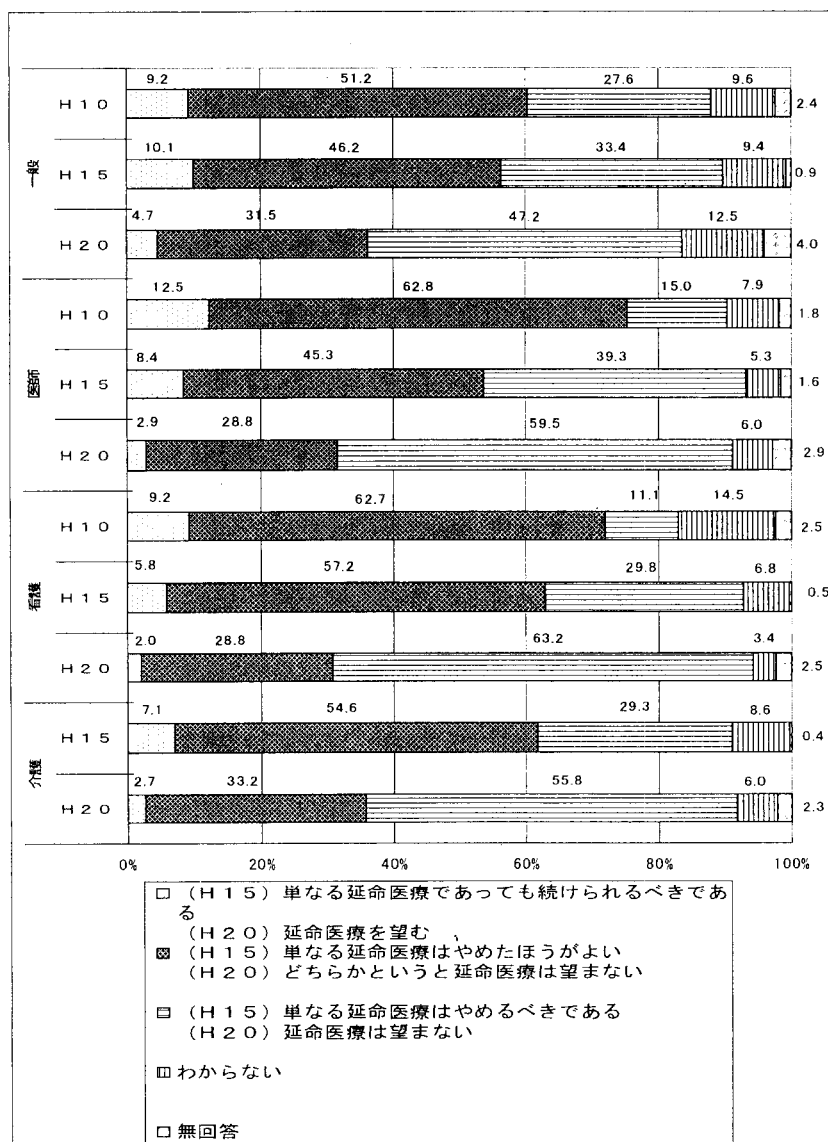
## (5) 遷延性意識障害の患者に対する医療のあり方

【(一般)問8, (医療従事者)問12】

あなたご自身が、遷延性意識障害で治る見込みがないと診断された場合、延命医療を望みますか。(○は1つ)

自分が治る見込みのない遷延性意識障害になった場合、延命治療を中止することに肯定的である者が多く78%, 88%, 92%, 89% (前回81%, 85%, 87%, 84%)、一定の傾向である。延命治療を続けるべきであるとする国民、医師、看護職員、介護職員は5, 3, 2, 3% (前回10%, 8%, 6%, 7%)であり、減少している。延命医療について家族と話し合った者は、そうでない者と比べて「望まない」割合が高く、「わからない」割合が低い。また、緩和ケア病棟勤務の医師についても同様の傾向が見られた。

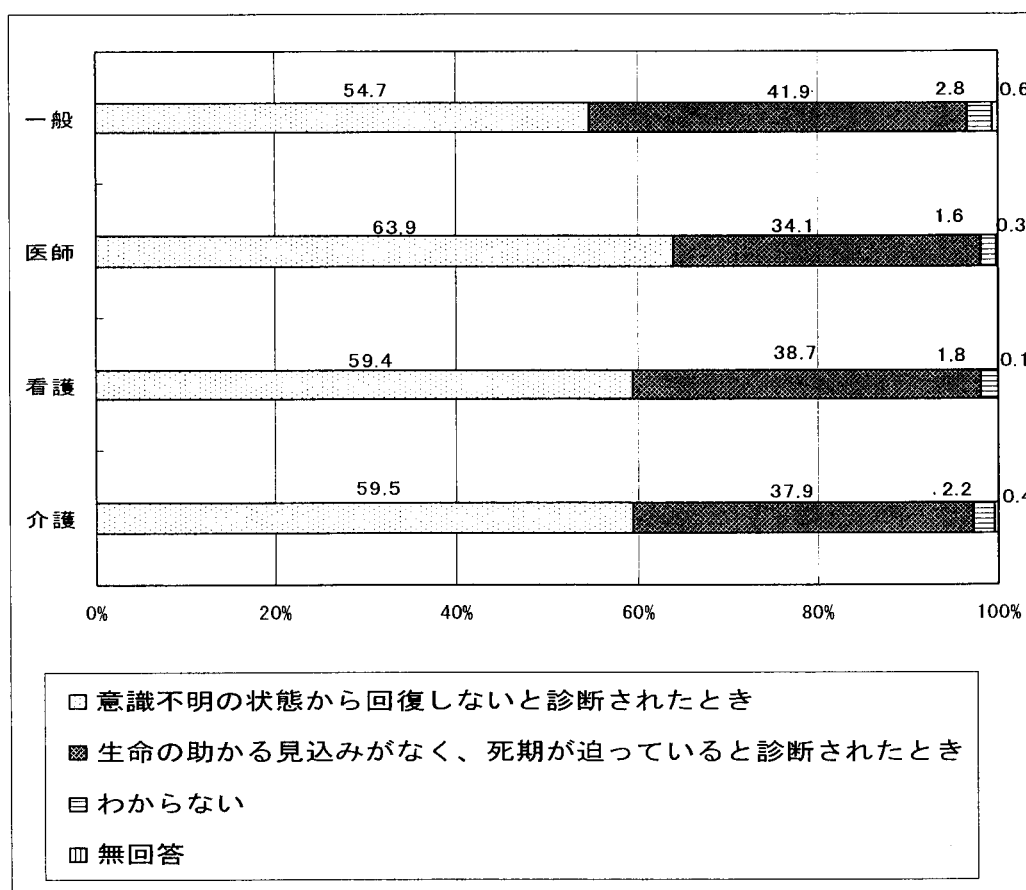
これまでの設問よりも全体で「延命治療を望む」が減り、「望まない」が圧倒的で、一般と他の集団に差が見られなくなっている。



【(一般) 問8 補問1, (医療従事者) 問12 補問1】

(問8、12で「2どちらかというとな延命医療は望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような時期に中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

自分が遷延性意識障害になった場合の延命医療の中止の時期については、「意識不明の状態から回復しない」時と、「生命の助かる見込みがない」時とで意見が分かれる。医師や、延命医療について家族で話し合った者は、そうでない者に比べて「意識不明の状態から回復しない」時を選ぶ割合が高い(医64%, 話し合い50%と38%)。また、年代別では高齢になるほど「意識不明の状態から回復しない」時を選ぶ割合が低下する。

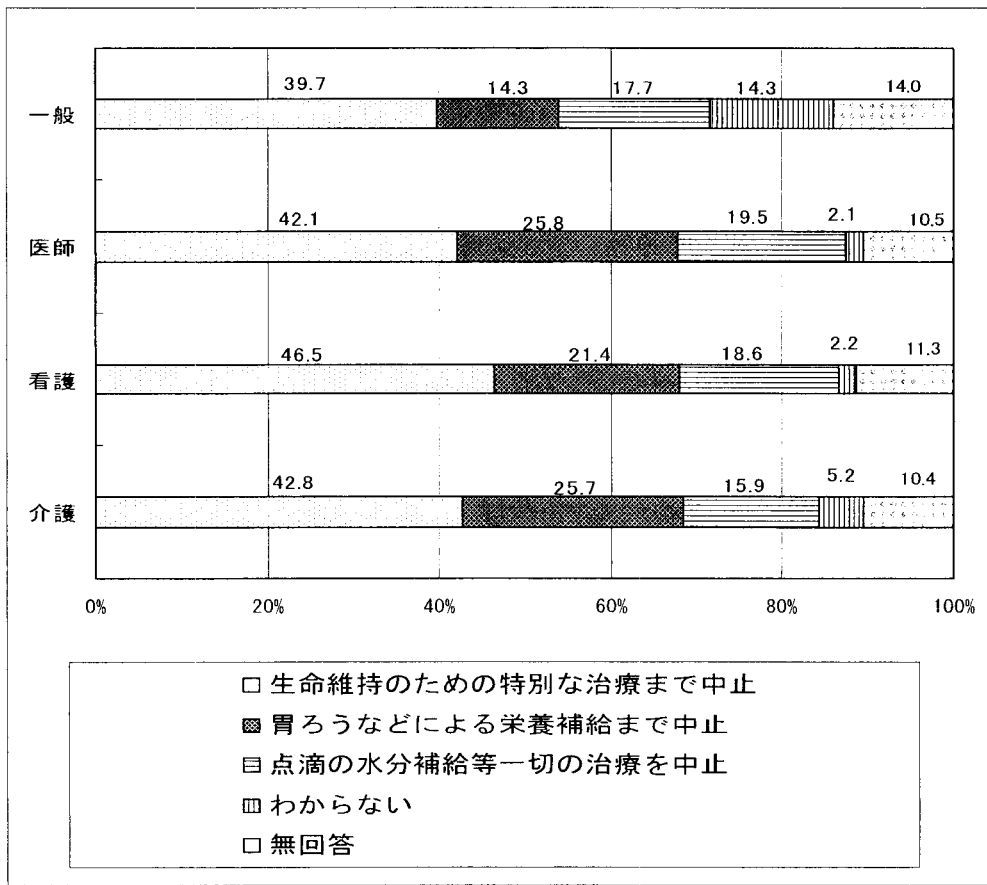


【(一般) 問8補問2, (医療従事者) 問12補問2】

(問8、12で「2どちらか」というと延命医療は望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に)

この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような治療を中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

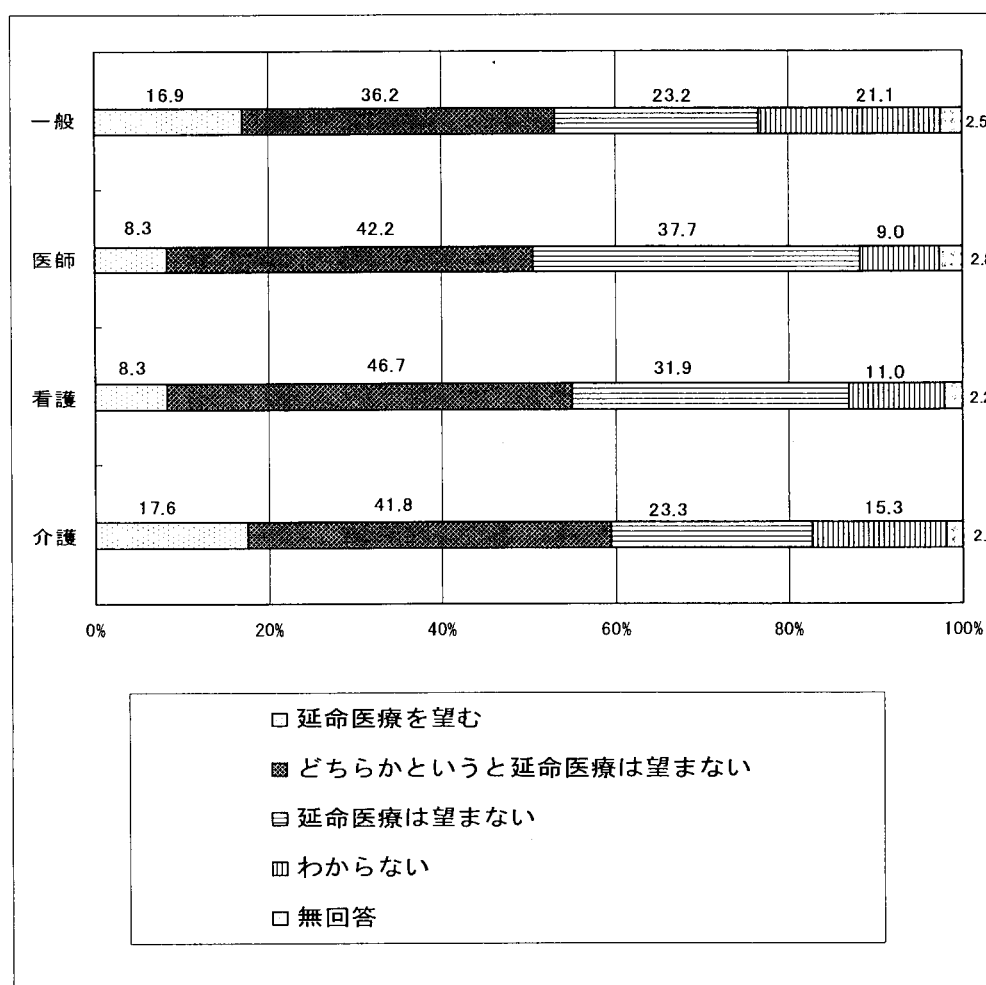
自分が遷延性意識障害になった場合の延命治療の中止の方法について、国民、医師、看護職員、介護職員の39%, 42%, 46%, 43%が人工呼吸器等生命の維持のために特別に用いられる治療を中止して良いが、それ以外の治療は続けるとしている。その割合は、死期が迫っている場合と比べると低い。



【(一般)問9 (医療関係者)問13】あなたの家族が、遷延性意識障害で治る見込みがないと診断された場合、延命医療を望みますか。(○は1つ)

自分の家族が治る見込みのない遷延性意識障害になった場合については、延命治療を中止することに肯定的な割合は、般59%、医80%、看79%、介65%である。一方で延命医療を望む者も、般17%、医8%、看8%、介18%みられる。

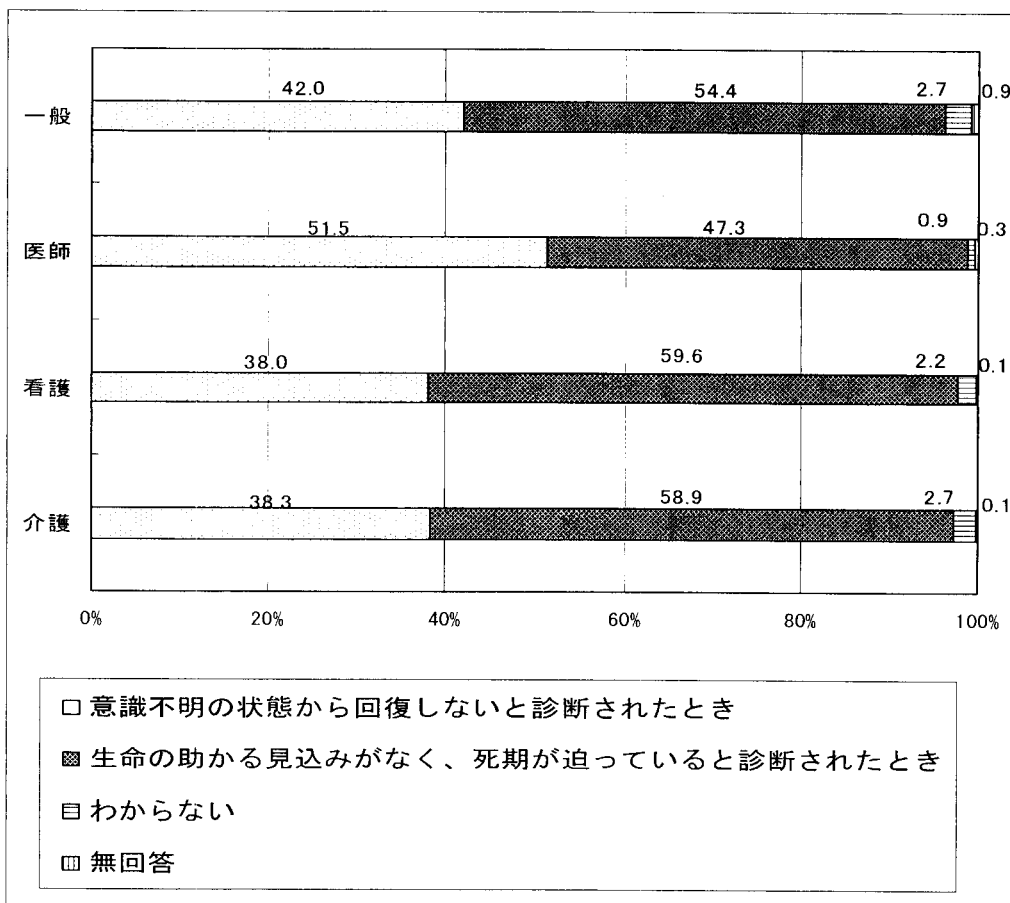
家族で延命医療について話し合いをしている者は、そうでない者に比べて延命医療の中止に肯定的であり(72%と48%)、年代別でも高年齢ほど延命医療の中止に肯定的である。





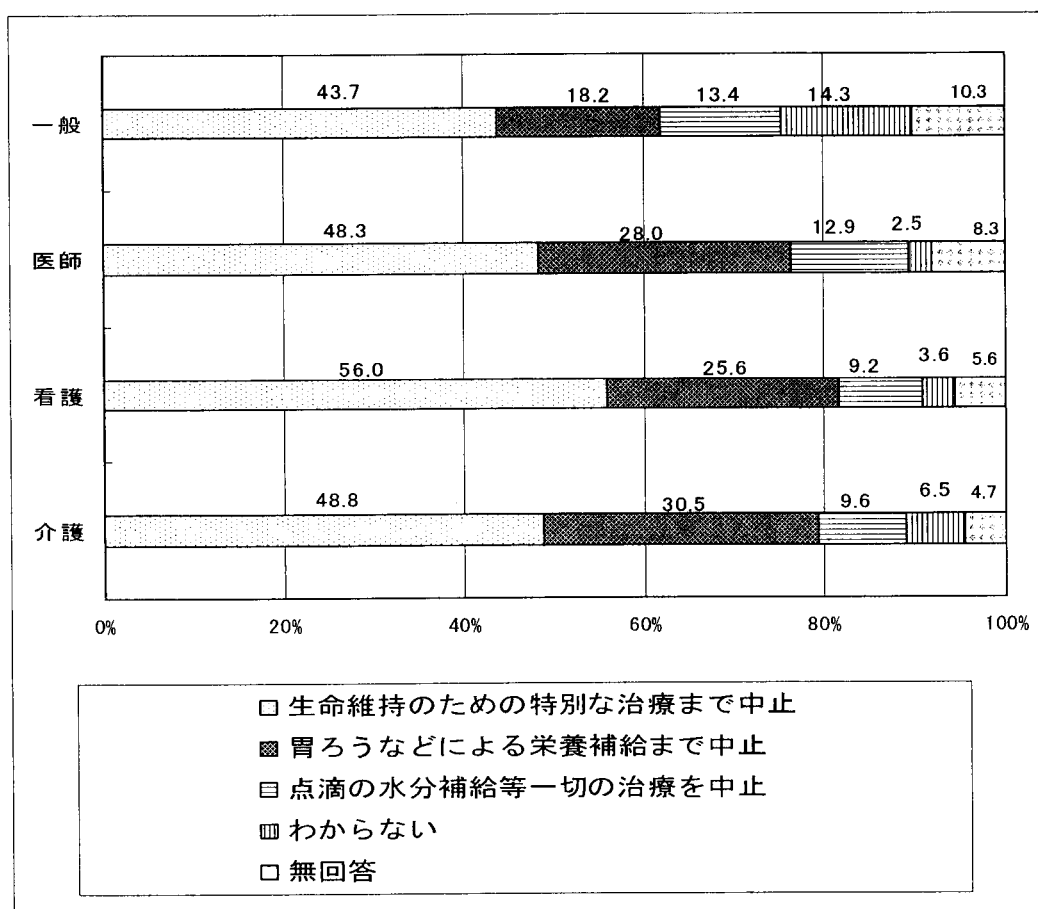
【(一般)問9補問1 (医療関係者)問13補問1】 (問9、13で「2どちらか」というと延命医療は望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような時期に中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

家族が遷延性意識障害になった場合の延命医療の中止の時期については、「意識不明の状態から回復しない」時と、「生命の助かる見込みがない」時とで意見が分かれ、自分の場合よりも「意識不明の状態から回復しない」時を選ぶ者は少ない。また、延命医療について家族と話し合いを行った者、年代別の傾向は自分の場合と同様である。



【(一般) 問9補問2 (医療関係者)問13補問2】 (問9、13で「2延命医療をどちらかという望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような治療を中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

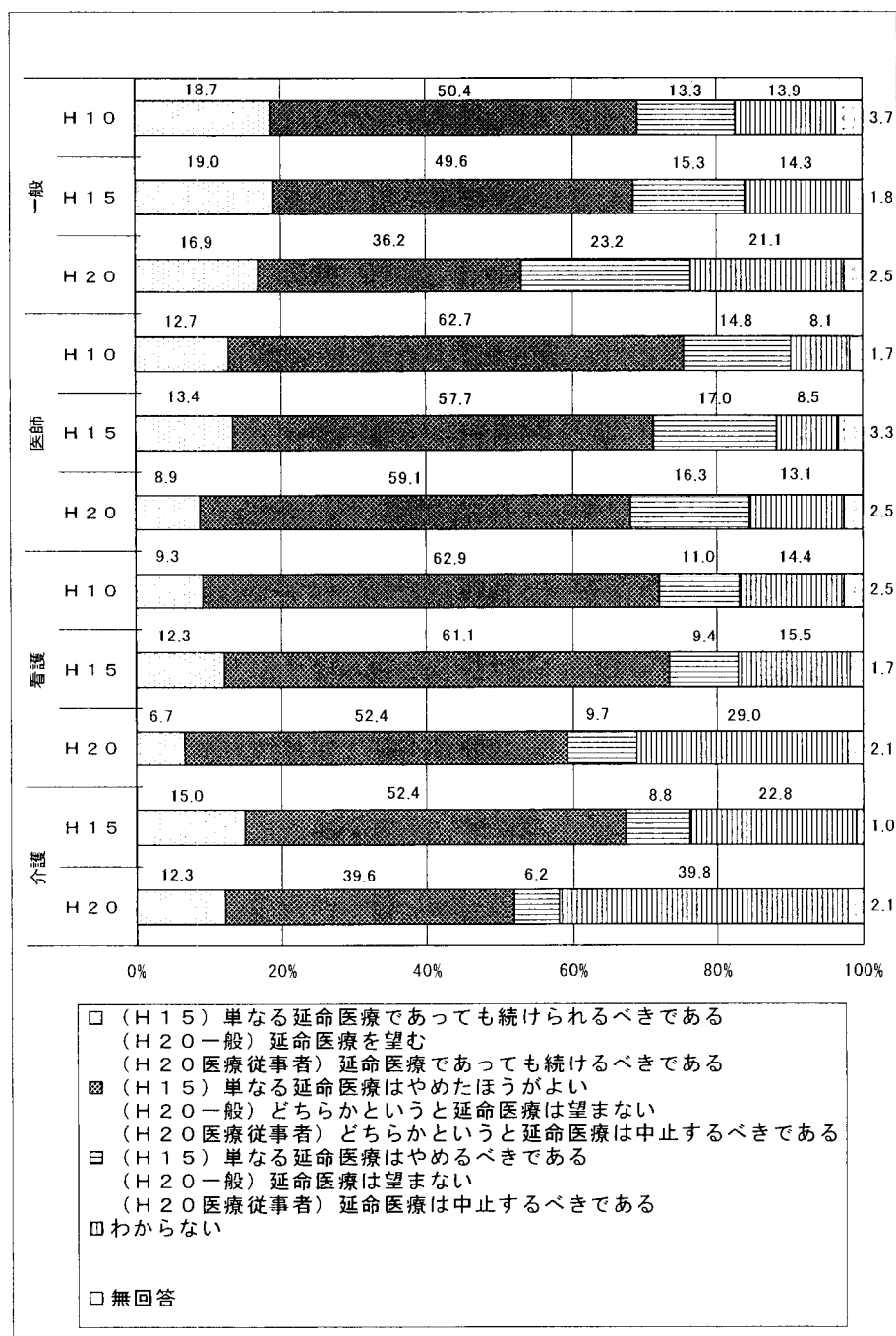
自分の家族が遷延性意識障害になった場合の延命治療の中止の方法について、国民、医師、看護職員、介護職員の43%、48%、56%、49%が「人工呼吸器等生命の維持のために特別に用いられる治療」を中止して良いが、それ以外の治療は続けるとしている。その割合は、自分の場合と比べると若干高い。また、延命医療について家族と話し合いを行った者、年代別の傾向は自分の場合と同様である。また、緩和ケア病棟勤務の医師では「胃ろうなどによる栄養補給まで」の中止を望む者が多い。



【(一般) 問9】あなたの家族が、遷延性意識障害で治る見込みがないと診断された場合、延命医療を望みますか。(○は1つ)

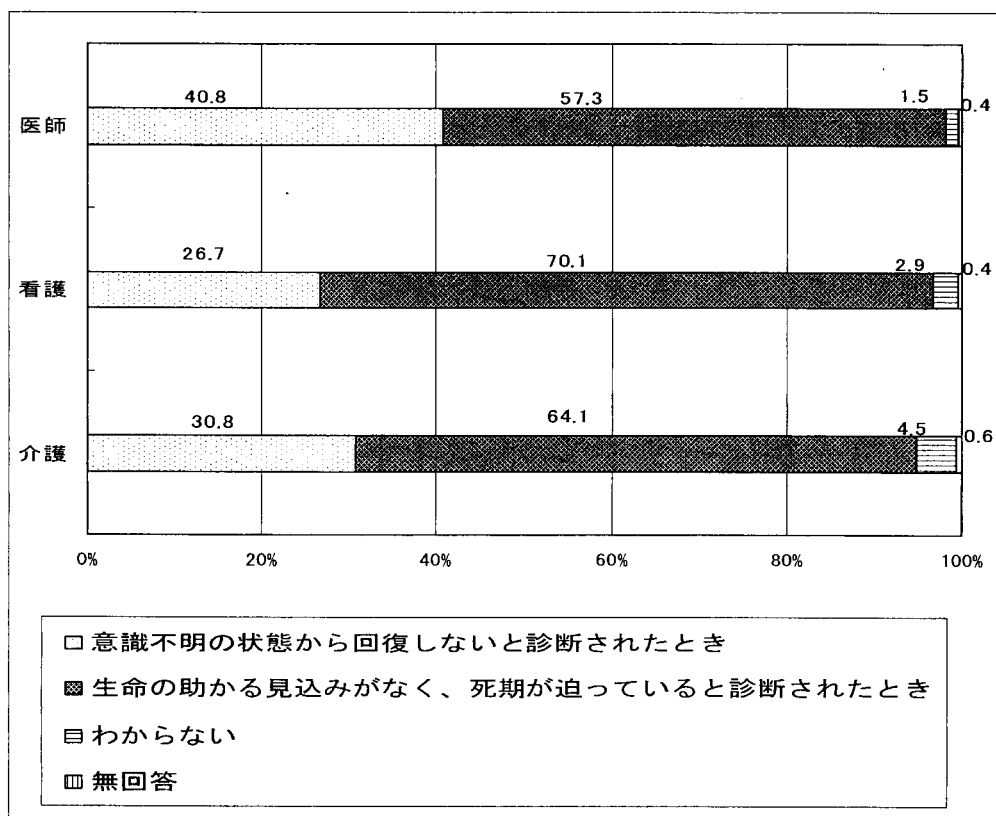
【(医療従事者) 問14】あなたの担当している患者が遷延性意識障害で治る見込みがない場合、延命医療の中止についてどのようにお考えになりますか。(○は1つ)

自分の患者が治る見込みのない遷延性意識障害になった場合については、延命治療を中止することに肯定的な割合は、医 80, 看 62, 介 45%である。看護・介護では自分や自分の家族の場合より低くなっており、「わからない」とする者が多い(看 29%, 介 40%)。



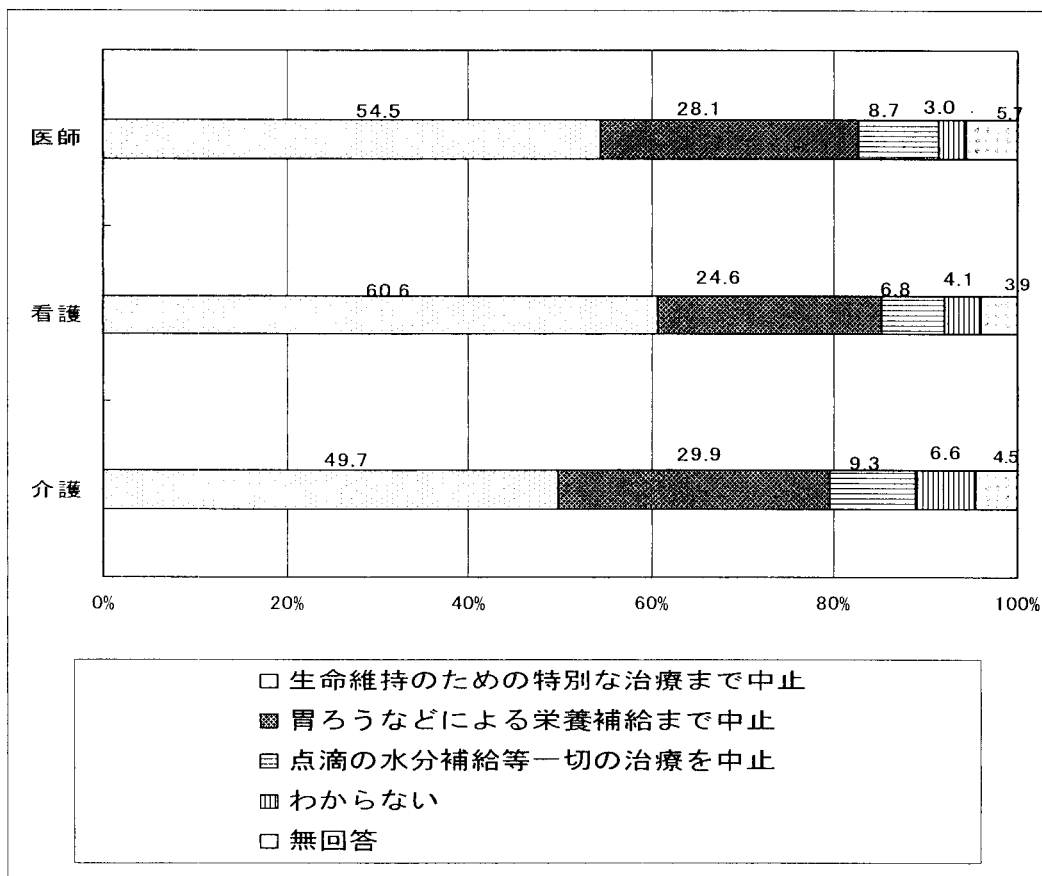
【(医療従事者) 問14補問1】 (問14で「2どちらか」というと延命医療は中止すべきである」「3延命医療は中止すべきである」をお選びの方に) この場合、具体的にはどのような時期に中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

担当患者が遷延性意識障害にて延命医療をやめるべきと考える時期としては、自分や自分の家族の場合とは異なり、「生命の助かる見込みがない」場合の割合が高い。



【(医療従事者) 問 1 4 補問 2】 (問 1 4 で「2 延命医療をどちらかというとう望まない」「3 延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合、具体的にはどのような治療を中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(○は 1 つ)

自分の患者が遷延性意識障害になった場合の延命治療の中止の方法について、医師、看護職員、介護職員の 55%, 61%, 50% が人工呼吸器等生命の維持のために特別に用いられる治療を中止して良いとしており、その割合は、自分や自分の家族の場合と比べると高くなっている。



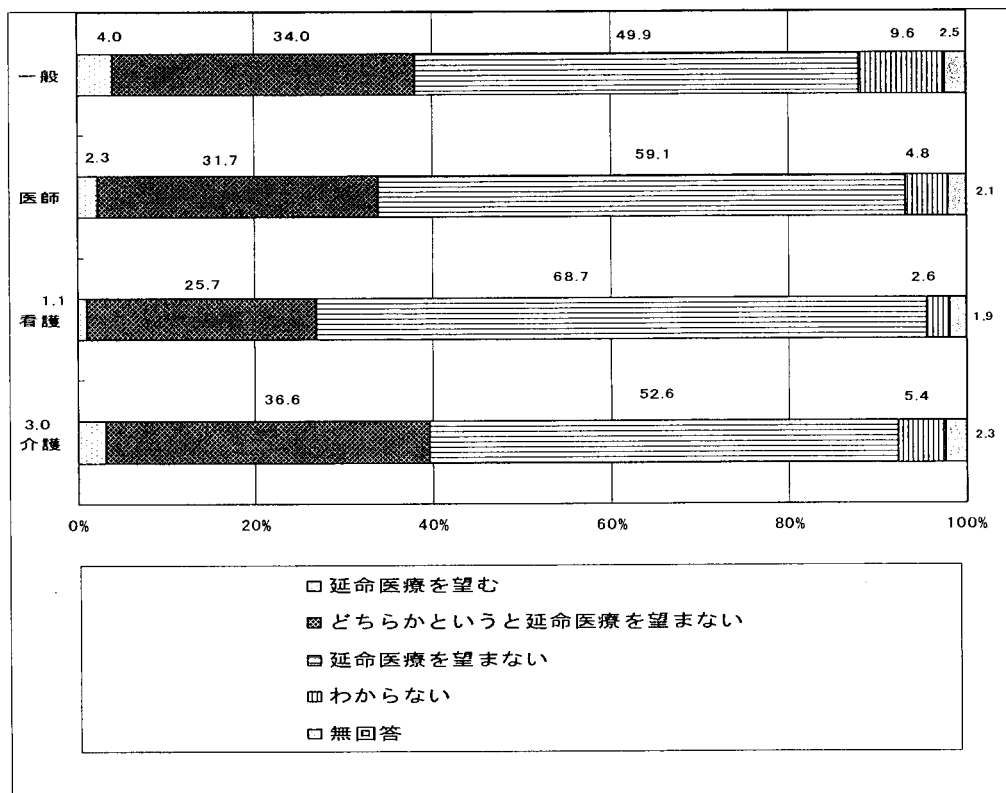
## (6) 脳血管障害や認知症等によって全身状態が悪化した患者に対する医療のあり方

【(一般)問10 (医療関係者)問15】あなたが高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合、延命医療を望みますか。(〇は1つ)

自分が脳血管障害や認知症等で治る見込みがなく全身状態が悪化した場合、延命治療を中止することに肯定的である者が多く84%, 91%, 94%, 89%、遷延性意識障害の場合と同様の傾向である。

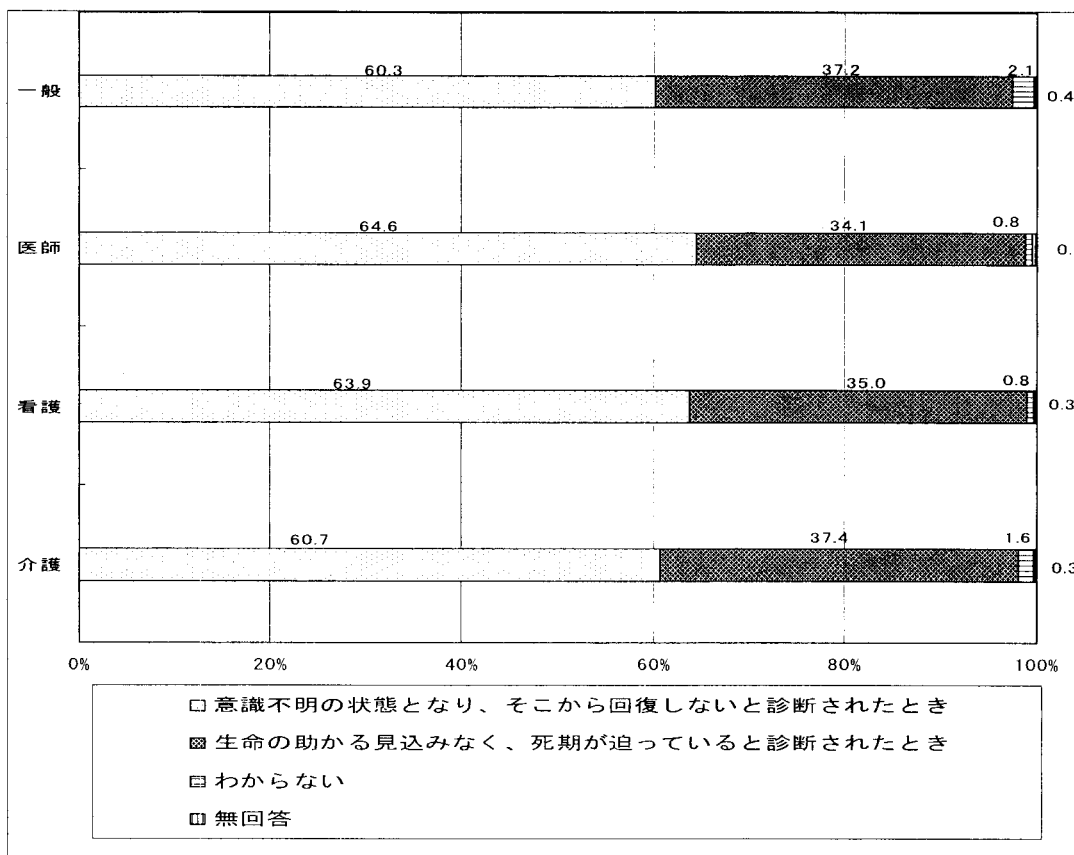
死期が迫っている場合や遷延性意識障害の状態と比べ、さらに「延命医療を望む」者が減っている。

延命医療について話し合いを行っている者は、他の状態と同じく「わからない」が減り、「延命医療を望まない」者が多くなっている。緩和ケア病棟勤務の医師に関しても同様であった。年代別での明らかな傾向は見られなかった。



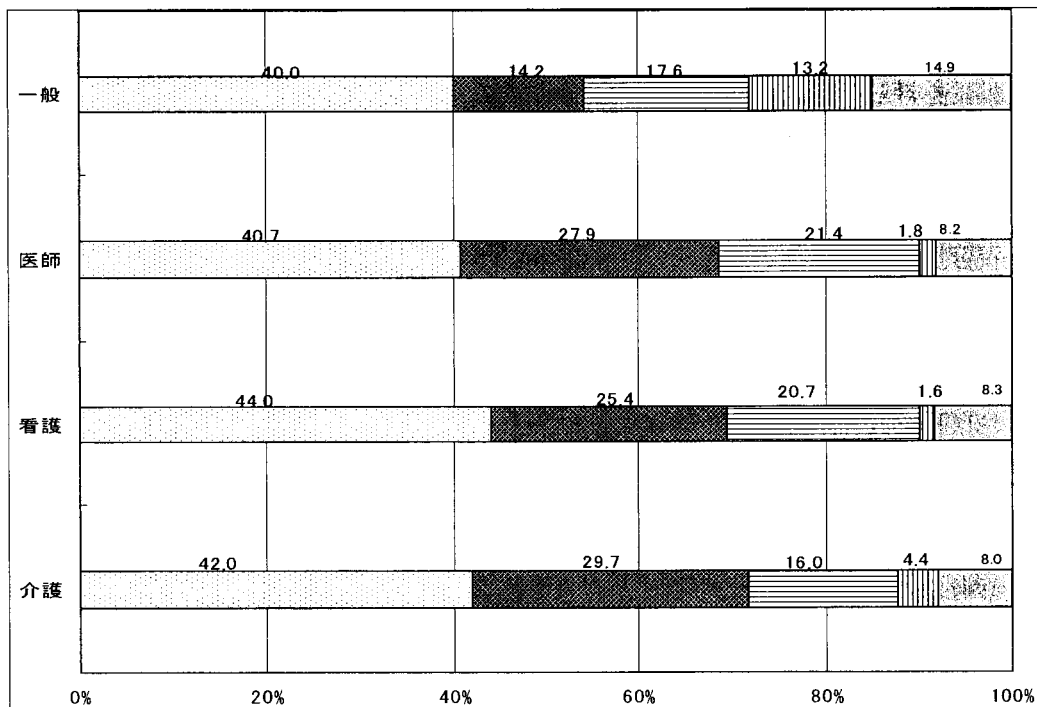
【(一般)問10補問1 (医療関係者)問15補問1】 (問10、15で「2延命医療をどちらかというとな望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に)この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような時期に中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

自分が脳血管障害や認知症等で治る見込みがなく全身状態が悪化した場合の延命医療の中止の時期については、「意識不明の状態から回復しない」時と、「生命の助かる見込みがない」時とで意見が分かれる。遷延性意識障害の時と比べ「意識不明の状態から回復しない」時を選ぶ者が若干多い。また、延命医療について家族で話し合いを行った者や緩和ケア勤務の医師も、「意識不明の状態から回復しない」時を選ぶ者が多い。



【(一般)問10補問2 (医療関係者)問15補問2】 (問10、15で「2延命医療をどちらかというとな望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような治療を中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

自分が脳血管障害や認知症等で治る見込みがなく全身状態が悪化した場合の延命治療の中止の方法について、国民、医師、看護職員、介護職員の40%、41%、44%、42%が人工呼吸器等生命の維持のために特別に用いられる治療を中止して良いが、それ以外の治療は続けるとしている。その割合は、遷延性意識障害の場合とほぼ同じである。緩和ケア病棟勤務の医師では、他の状態同様「胃ろうや中心静脈栄養などによる栄養補給まで中止」を望む者が多い。



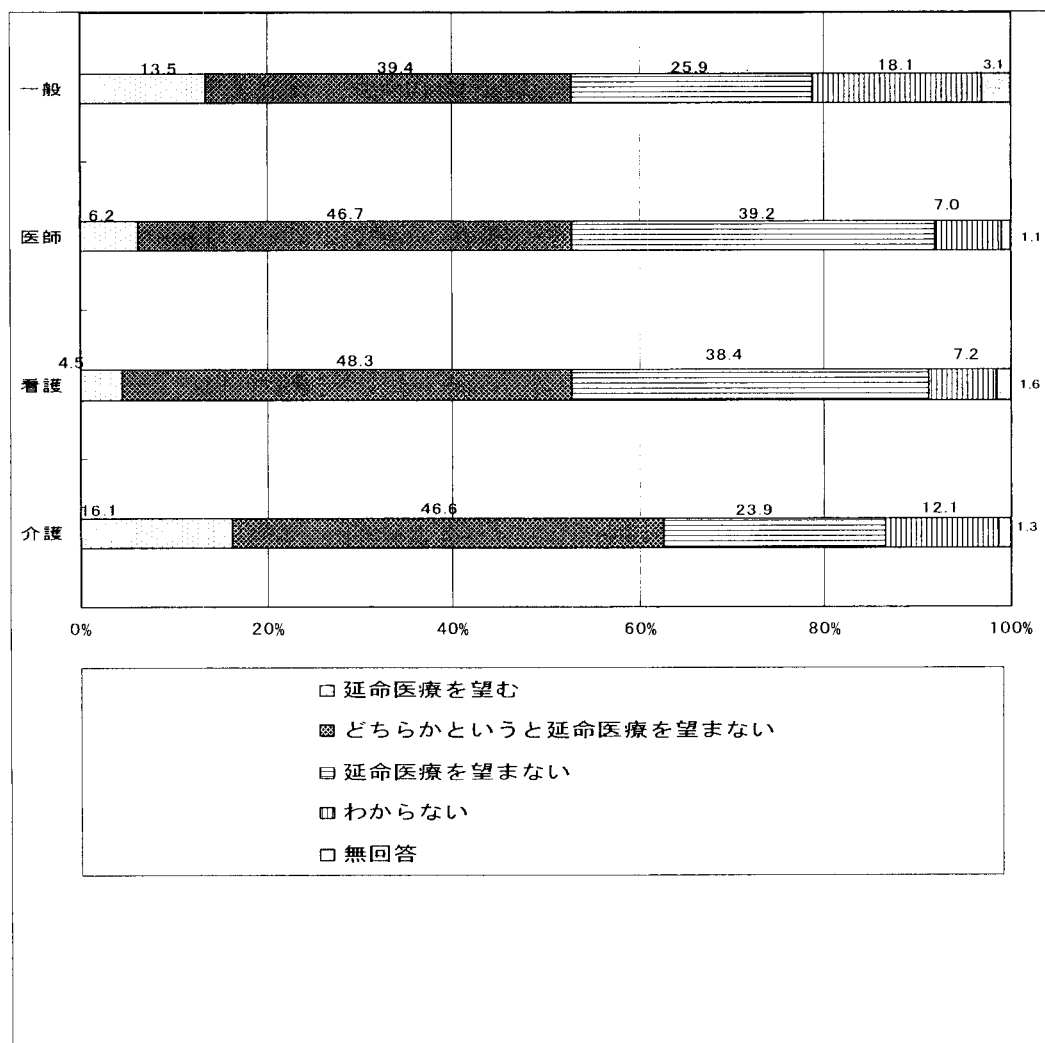
- 人工呼吸器等、生命維持の為に特別に用いられる治療まで中止
- 胃ろうや中心静脈栄養などによる栄養補給まで中止
- 点滴等の水分補給など、一切の治療を中止してほしい
- わからない
- 無回答



【(一般)問12 (医療関係者)問17】 あなたの家族が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合、延命医療を望みますか。(○は1つ)

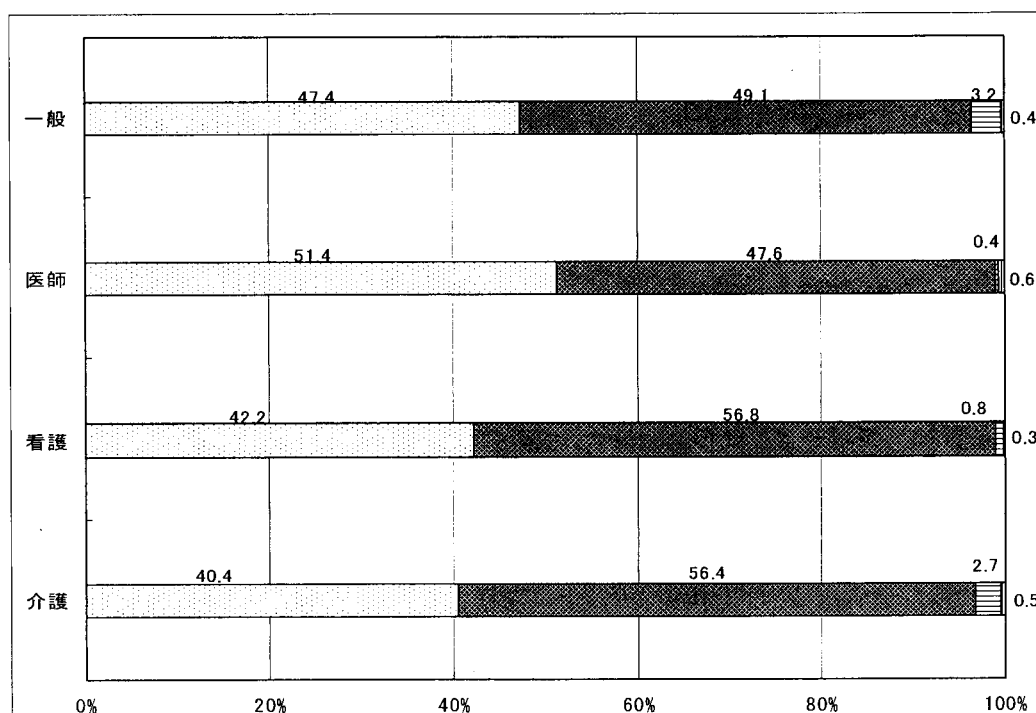
家族が脳血管障害や認知症等で治る見込みがなく全身状態が悪化した場合、延命治療を中止することに肯定的である者が多いが(一般65%, 医86%, 看87%, 介70%)、一般国民ではわからないとする者が自分の場合と比べて多い。

延命医療について家族と話し合いを行った者、緩和ケア病棟勤務の医師、年代別では高齢者ほど、「延命医療は望まない」者の割合が高い。



【(一般)問12補問1 (医療関係者)問17補問1】 (問12、17で「2延命医療をどちらかというとな望まない」「3延命医療は望まない」をお選びの方に) この場合延命医療を望まないとき、具体的にはどのような時期に中止することを望みますか。お考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

家族が脳血管障害や認知症等で治る見込みがなく全身状態が悪化した場合の延命医療の中止の時期については、「意識不明の状態から回復しない」時と、「生命の助かる見込みがない」時とで意見が分かれる。自分の時と比べ「生命の助かる見込みがない」時を選ぶ者が多い。延命医療について家族で話し合いを行った者や緩和ケア病棟勤務の医師では「意識不明の状態から回復しない」時を選ぶ者が多く、年代別では高齢ほど「生命の助かる見込みがない」時を選ぶ者が多い。



□ 意識不明の状態となり、そこから回復しないと診断されたとき  
 ■ 生命の助かる見込みなく、死期が迫っていると診断されたとき  
 ▨ わからない  
 ▩ 無回答